

KEY NUMBERS

「数字」で解く
マルハニチロ

もっと私たちを知っていただくために、象徴的な「数字」で綴ったミニコラム集。
グループの歴史に関わる数字、事業規模がわかる数字、
認証や環境問題にまつわる数字などなど、ご一読あれ!

2010年

民間企業として初めてクロマグロの「完全養殖」に成功。稚魚を買い付けて育てる一般の養殖とは違い、産卵からふ化・育成まで、すべてを人工的に行う。この完全サイクルの確立こそが大きく異なる点だ。すでに2015年から商業出荷を開始し、2019年には業界初の欧州出荷を実現。
▶ 詳しくは本誌 p.13



-25°C

マルハニチロ物流(物流ユニット)の主な保管温度帯(冷凍)。この他、冷蔵帯や超低温帯など、10°C~-50°Cまで商品に合わせた温度帯での保管に対応している。

1位

冷凍食品「横浜あんかけラーメン」は冷凍ラーメン売上1位*。この商品は中華の名店、広東名菜「赤坂璃宮」オーナーシェフ・譚彦彬氏監修による人気シリーズ「新中華街」のひとつ。豚肉ときくらげにたっぷりの野菜(もやし、白菜、たけのこ、にんじん、ねぎ、小松菜)を炒めたとろみスープが決め手!

*冷凍調理ラーメンカテゴリ
販売金額(累計)、インテージSRI
(2018年10月~2020年9月)



149社

グループ会社の数(2021年3月時点。国内74社、海外75社)。日本をはじめ北米・南米・アジア・オセアニア・欧州・アフリカ各地にネットワークは広がっている。
▶ 詳しくは本誌 p.23



39種

環境・自然保護に配慮した「持続可能な漁業」の証、MSC漁業認証。労働者の人権、地域社会にも配慮した「持続可能な養殖場」の証、ASC養殖場認証。当社グループではその両認証を取得した漁業・養殖場を供給源とする水産物取扱数が39種に達した。



MSC-C-51737



ASC-C-01271

た漁業・養殖場を供給源とする水産物取扱数が39種に達した。
(2021年4月時点)

主な魚種【MSC漁業認証】ホタテガイ、オーストラリアタイガー、サバ、ベニサケ、スケソウダラなど。【ASC養殖場認証】ブリ、アサリ、バナメイエビなど。
*MSC(Marine Stewardship Council:海洋管理協議会)
*ASC(Aquaculture Stewardship Council:水産養殖管理協議会)

約40,000t

世界各地から買い付けるエビの取扱量は約4万トン。これは国内シェアの約18%で、No.1(2020年1~12月累計/当社調べ)。



6/22

青魚などに多く含まれるDHA(ドコサヘキサエン酸)は、血液中の中性脂肪値を下げたり、認知機能の一部である情報の記憶をサポートしたりする効果もあると報告されています。そんなDHAを使った加工食品や健康食品を手がけてきたマルハニチロが「DHAの日」を制定、(一社)日本記念日協会に登録した(2012年)。しかしなぜ、6月22日なのか? それはDHAが「6つのシス型の二重結合を含む22個の炭素鎖をもつカルボン酸の総称(!!)」であるから、とか。

10社

当社グループは「サステナビリティ長期ビジョン」を策定し、経済・社会・環境に価値をもたらす取り組みを推進。その活動のひとつが、持続可能な水産資源の保全である。その実践に向けて、2016年から、世界の水産関連企業10社と科学者によって組織された「SeaBOS*」のメンバーとして活動開始。伊藤会長が2018年からの2年間、SeaBOS初代会長を務めた。今後も、健全で生産的な海洋の実現やIUU(違法・無報告・無規制)漁業の撲滅など、持続可能な水産資源の利用に向けて積極的に関与していく。

*SeaBOS(Seafood Business for Ocean Stewardship):海洋管理と持続可能な水産事業の推進を目的として世界の水産大手企業が発足した組織



©Thai Union Group

1949年

2019年の球団創設70周年オフィシャルスポンサー就任に続き、横浜DeNAベイスターズ2021年春季キャンプ「冠」スポンサーおよびユニフォーム(パンツ)スポンサーに就任した。「まるは球団」として1949年に下関で誕生したチームは、翌年から「大洋ホエールズ」に改名。その後本拠地を変え、球団名を変えながら2002年まで、当社は球団経営に携わった。

